

(様式5)

教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立大門高等学校・教諭・中西 純
- 2 研修期間 令和6年7月25日(木) 1日間
- 3 調査研究課題 教師と企業人との交流
- 4 研修機関等 インテック大山研修センター
- 5 研修の概要

今回の研修は、未来に向けた教育における教師の役割を再認識することを目的に、産業界のリーダーの皆さんと対話を深める貴重な機会となりました。講演者は各界を代表する3名の方々と、実体験や未来へのビジョンから、多くの学びを得ました。

富山経済同友会代表幹事の牧田和樹氏は、思いやりによる人脈の構築や、学習による知性の向上、自身の存在意義を確立し自己効力感を高めることが必要とし、教師の人間力が、子どもを人間力を育てると述べられました。教師の指導・支援が子どもたちの学びや未来に向かうことに直結することを感じました。

続いて、YKK(株)副社長 黒部事業所長の小林聖子氏により、「自分らしく働く」と題した講演が行われました。偶然の出来事を活かして自分らしく生きるために、仲間を大切にすることや、運を逃さない嗅覚を磨き、運を活かす準備を万端にすることの大切さについて述べられました。教育現場をはじめ、生徒を取り巻く環境においても、チャンスや偶然の出来事を活かす準備ができているだろうかと考えさせられました。

最後に、(株)ユーグレナ代表取締役社長の出雲充氏が「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。」と題した講演で、「適切な科学×繰り返し努力する力」ですべての若者があらゆるフィールドで奇跡を起こすことができると話されました。これまで経験したことのないスピードで変化を遂げる社会に対応できる生徒の育成に向けた支援者(メンター)となり、力を尽くしたいと感じました。

挑戦する精神の育成

子どもたちが自ら課題に挑む力を育むためにモデルとなり、挑戦する精神を日々の教育の中で示すことが重要だと感じています。未知の世界への挑戦を恐れず、子どもたちが自らの可能性に向かって挑戦するような環境作りを目指したいと考えています。

学外との連携強化

学校の中だけで教育が完結するわけがなく、地域社会や様々な組織と連携することで、子どもたちに現実的な学びを提供することの意義を再確認しました。特に、地域での活動を通して子どもたちに自分の存在が社会の中でどのように生かされるかを体感させる機会を提供したいと考えています。

失敗を許容する学びの環境

失敗から学ぶプロセスを大切にすることが、次世代のリーダー育成に繋がると考えます。生徒に対して失敗を恐れないよう奨励し、成長の糧とするよう支援していく姿勢で日々の業務にあたりたいと考えています。

まとめ

今回の研修を通じて、富山県の未来を支える教師として、子どもたちに夢と挑戦する心構えを育むことの重要性を再認識しました。企業、地域と学校が一体となって教育を支えるために、私自身が果たせる役割について考え、一端を担っていく覚悟を新たにしました。